

8/4 朝日

開戦の詔勅に6回も「平和」

無職

(滋賀県 81)

安全保障関連法案に対し「戦争法案だ」「憲法違反」という国民の声が日増しに高まっている。安倍晋三首相は「国民の平和と安全」のためとして、「『戦争法案』とは無責任なレッテル貼り」と反論するが、果たしてそうだろうか。

私は元高校教員で日本史を主に教えてきた。1941年12月8日の太平洋戦争開戦の詔勅(米英両国に対する宣戦の詔書)をネットで入手し改めて読み直してみた。そこには「東亜の安定を確保し、以て世界の平和に寄与するは(中略)朕が拳々措かざる所」などと

「平和」の文字が6回もあった。「帝国の存立亦正に危殆に瀕せり」「今や自存自衛の為断然起つて」などとも述べていた。安倍首相が今国会で安保法案を通すため、声高に言っていることとよく似ているのではないか。

安倍首相が、母方の祖父で、開戦時の東条内閣で商工大臣を務めた岸信介を尊敬していることを、とやかく言うつもりはない。だがそのマネをして日本を再び「戦争をする国」にすることはやめてもらいたい。尋常小学校が「皇国民の錬成」を目指す「国民学校」に変わった年の1年生で、軍国少年だった筆者の切なる願いである。

この夏のうねりを忘れない

1級建築士

(東京都 59)

私は忘れない、この夏のうねりを。安全保障関連法案反対と声を上げた多くの人たちのことを忘れない。国会の動きを注視して、この先の選挙に備えよう。政治家の失言や暴言を忘れない。撤回すれば消えるわけではない。

夏になると報道される戦争のこと。戦後70年、戦後が永遠に続くよう、空気がように当たり前と思っっている平和の大切さを忘れてはならない。

沖繩のことを忘れない。議論が平行線であっても、時間が過ぎれば結論ありき

の行動をすることを、話し合いとは言わない。原発事故のこと、福島避難者を忘れない。なし崩しのように原発再稼働を進めていることを忘れない。

あまり報道されなくなったが、口永良部島の爆発的噴火による避難生活が続いていることを忘れない。サイン、コサインを女子

高校生に教えて何になると言った知事のことを忘れない。私は重度の障害者を抱える母親だが、サイン、コサインのおかげで、細々とではあるが在宅で28年間、仕事を継続している。忘れてはいけないことが、たくさんある。

私も扇町を赤く染めた1人

無職

(兵庫県 68)

安全保障関連法案反対の訴えに筒して、8月29日は神戸・東遊地での集会(兵庫県弁護士会主催)に参加し、30日は大阪・扇町園の集會に参加しました。

大阪では右翼の街宣車が列を連ねて大音響で君が代を流し、集會に参加するなどの旨を話しているが雑音混じりながら聞き取れませんでした。驚きでしたが、安保法案反対のうねりが強まっているからこゝろ、推進派が脅威を感じているのを推測しました。公園の入り口「戦争アカン!」の赤い紙をみい、かかげました。参加者はみ

な自発的にここにいるのだという雰囲気になっていました。公明党の支持母体である創価学会の女性も壇上で廃案を訴えました。とても勇気が必要だったでしょう。

安倍政権は、憲法の解釈を変えて集団的自衛権行使容認を閣議決定し、他国の戦争に参加する道を開こうとしています。後で撤回したもの、側近の「法的安定性は関係ない」発言など、憲法を軽視する風潮がみえます。でも、集會の参加者は憲法9条を守ろうという点で一致していたので、心強く思いました。翌日の紙面で公園が真っ赤に染まった写真をみて「見事や!」と思いました。